

3 地域住民のニーズ等の把握・分析

(1) 市民アンケート調査等の把握・分析

○中心市街地に訪れる頻度と交通手段

・「週に1回」以上、中心市街地へ出かけると答えているのは29%にとどまる

⇒**中心市街地の魅力が低い**

・利用する交通手段は「自家用車」が約6割を占めている

⇒**車に依存した社会**

○中心市街地に訪れる主な目的と滞在時間

・平日、休日共に「買い物」の割合が高い

・滞在時間は2時間未満が7割を占める⇒**回遊性・滞留性が低い**

○中心市街地に充実させてほしい商業施設

・「百貨店、デパート」が最も多く、「レストラン」「カフェ」と続く。

また「生鮮食品店」などのニーズも高い⇒**食料品や生活用品を購入できる店舗のニーズが高い**

○中心市街地に充実させてほしい商業施設以外の施設等

・「駐車場」が最も多い⇒**利用しやすい駐車場へのニーズが高い**

○よく行く商店街

・「宇部新天町名店街」と「行かない」が、共に3割を占める

⇒**多くの商店街は魅力が低い**

○公共交通について

・市街地循環バスについて「利用したことがない」が68%、「存在を知らない」が15%⇒**利便性の向上やPRが重要**

○中心市街地の居住を進めるために必要だと思われること

・「日常の買い物が便利になるような店舗が増えること」が最も多い

⇒**利便性を高める店舗等の導入が居住を促進すると考えられる**

○現在の満足度が低く、今後の重要度が高い項目は以下の8項目

- ◆「子育て支援・教育施設が充実」 ◆「魅力的な店舗が充実」
- ◆「食料品・日用品を扱う店舗が充実」 ◆「イベントや催事の開催が充実」
- ◆「公共交通機関が充実」 ◆「駐車場・駐輪場が充実」 ◆「働く場の充実」
- ◆「空き家・空き店舗、空き地などが少ない」

**改善が
必要**

○現在の満足度、今後の重要度共に高い項目は以下の7項目

- ◆「暮らしに役立つ公共施設等が充実」 ◆「医療や福祉施設(健康)が充実」
- ◆「安心、安全で治安が良い」 ◆「自転車で動きやすい」
- ◆「歩きやすい歩道が充実」 ◆「快適に過ごすための環境」
- ◆「まちなかの景観が充実」

**強みを
伸ばすことが
必要**

中心市街地に関するアンケート調査の概要

(1) 調査期間

- (ア) 中心市街地における市民アンケート調査
令和元年(2019年)5月1日～令和元年(2019年)5月20日
- (イ) 街頭アンケート調査
令和元年(2019年)5月25日 10時～15時

(2) 調査方法

- (ア) 郵送による配布／回収 無記名回答方式
- (イ) 聞き取り方式

(3) 調査対象

- (ア) 住民基本台帳から無作為に抽出した市内に居住する15歳以上の市民2,200人
- (イ) 「まちなかフラワーフェスタ」会場(宇部新天町名店街)への来場者

(4) 回答数

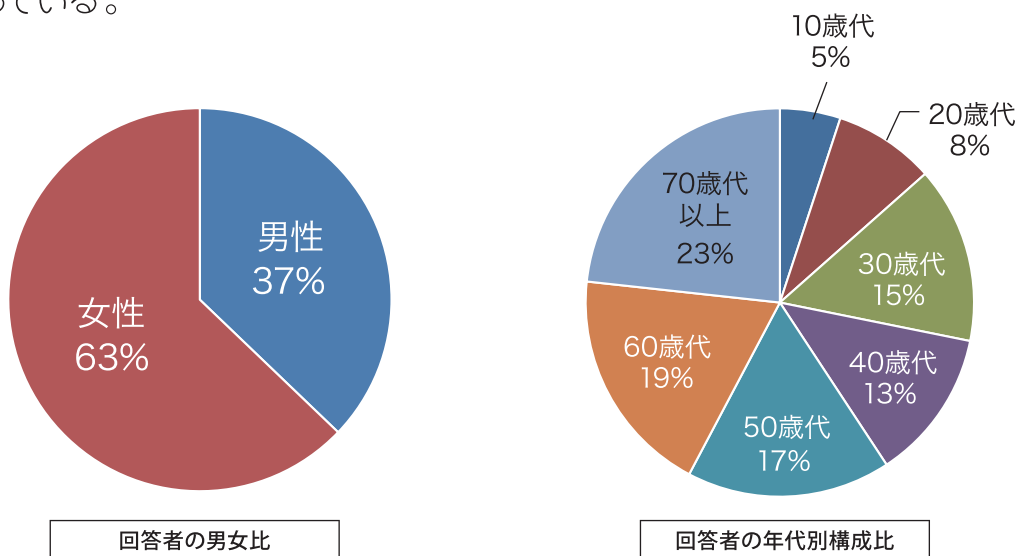
- (ア) 回答数667人(回答率30.3%)
- (イ) 回答数201人

(5) 調査結果(※)

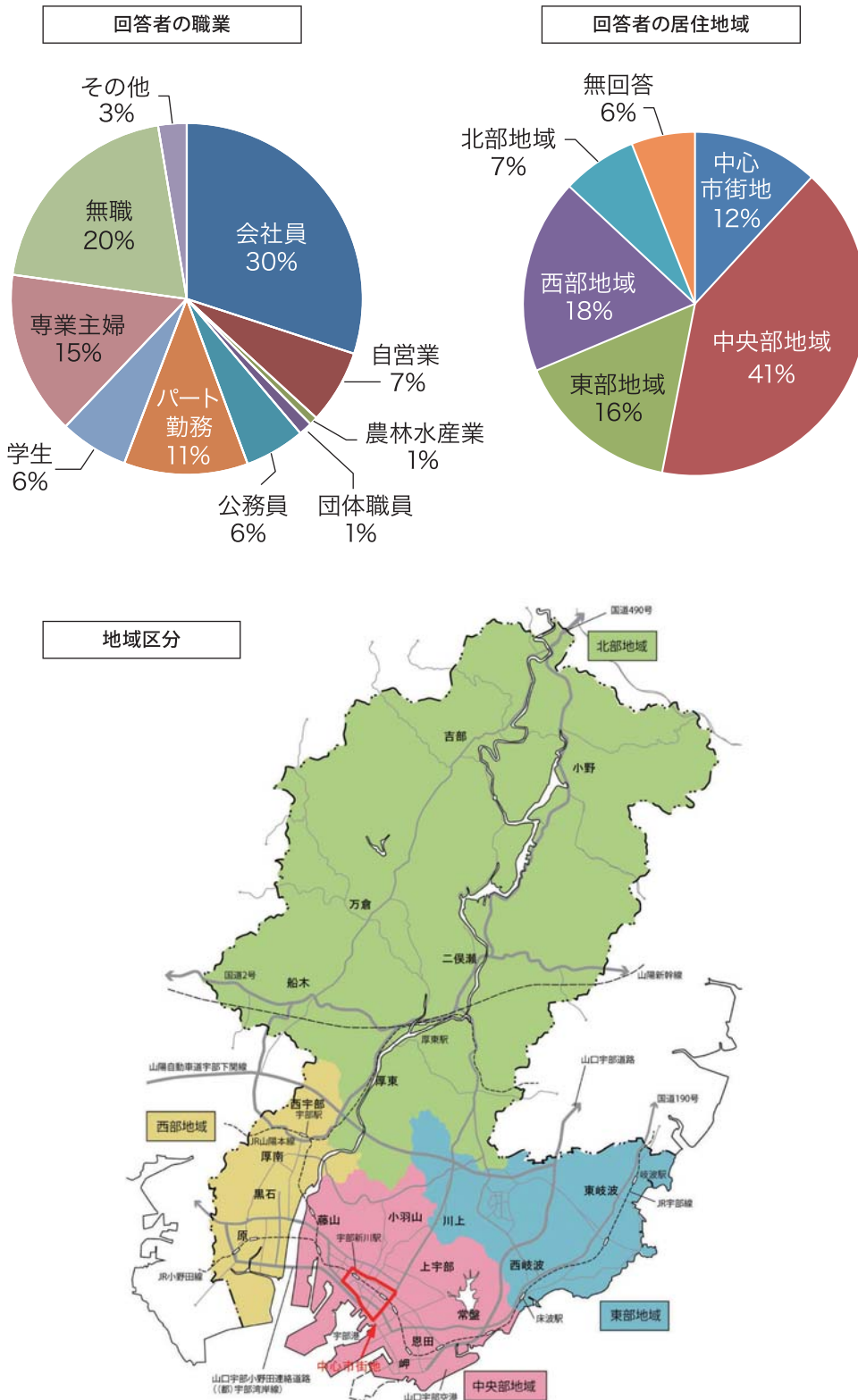
- (※) 以下、アンケート(ア)(イ)において、同様の問で、かつ結果に大きな差がないものについては、(ア)の結果について記載する

① 回答者属性

アンケートに回答いただいた方の男女の割合は男性37%、女性63%であり、年代別の構成比は10歳代が5%と最も低く、70歳代以上が23%と最も高くなっている。



また、回答者の職業別の割合は会社員が30%と最も高く、次いで無職が20%、専業主婦が15%となっている。回答者の居住地は、中心市街地以外の「中央部地域」が41%と最も多く、次いで「西部地域」の18%となっている。



② 中心市街地に訪れる頻度と交通手段

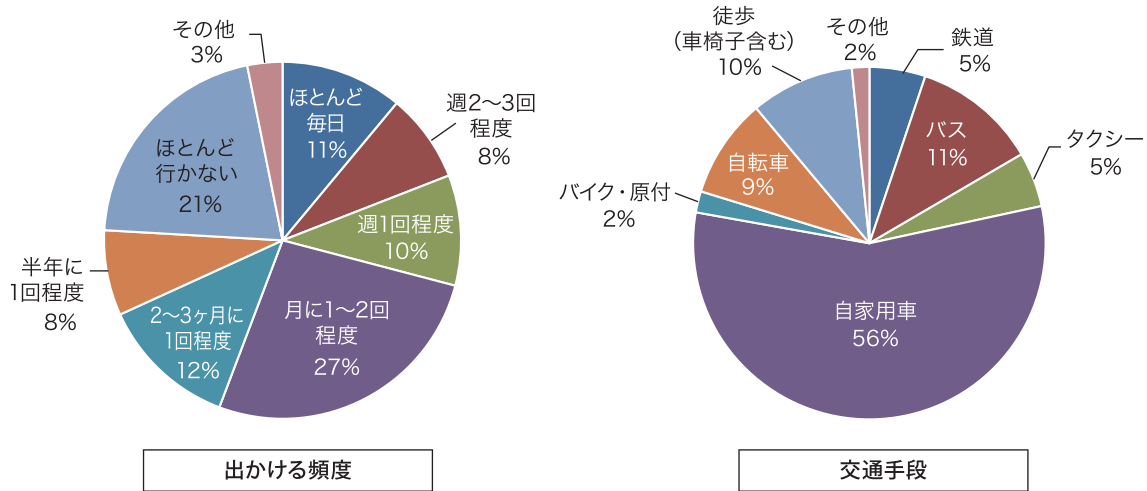
中心市街地に出かける頻度は「月に1～2回程度」が27%と最も多く、次いで「ほとんど行かない」の21%となっている。

「週に1回」以上、中心市街地へ出かけると答えた人は29%にとどまる。

⇒中心市街地の魅力が低い

また、出かける際に利用する交通手段は自家用車が56%と大半を占めており、次いでバス11%、徒歩が10%、自転車が9%となっている。

⇒車に大きく依存した社会

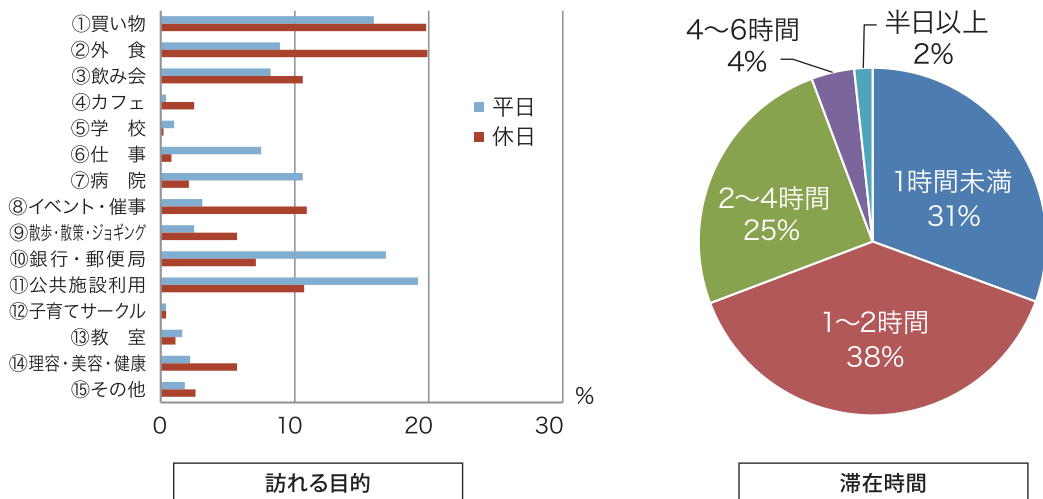


③ 中心市街地を訪れる目的と滞在時間

仕事や通学以外で中心市街地を訪れる目的は、平日では「公共施設利用」が最も多く、次いで「銀行や郵便局」、「買い物」となっている。また、休日では「外食」が最も多く、次いで「買い物」、「イベント・催事」の順となっている。

滞在時間は1～2時間が最も多く、次いで1時間未満となっている。

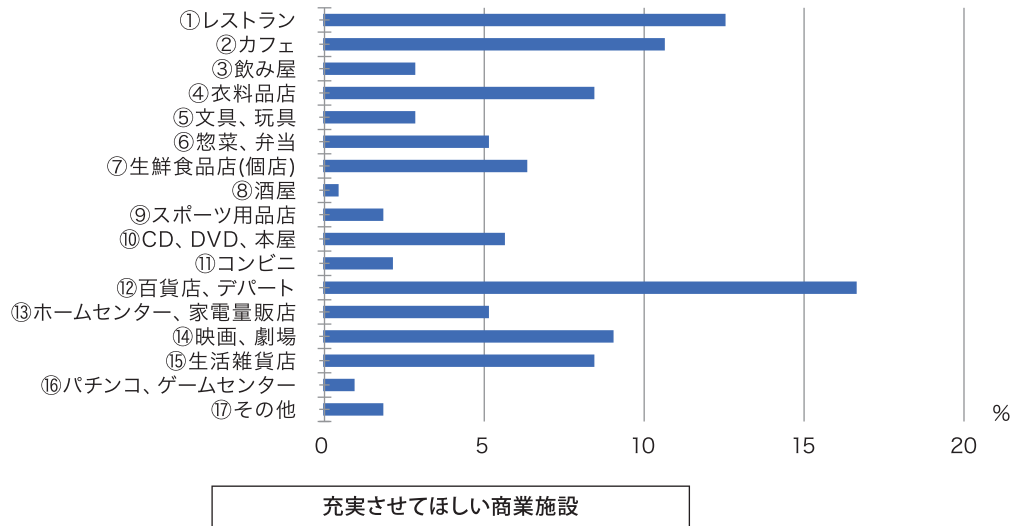
⇒回遊性、滞留性が低い



④ 中心市街地に充実させて欲しい商業施設

中心市街地に充実させて欲しい商業施設は、「百貨店・デパート」が最も多く、次いで「レストラン」、「カフェ」の順になっている。また、「衣料品店」や「生鮮食品店」、「生活雑貨店」などのニーズも比較的高い。

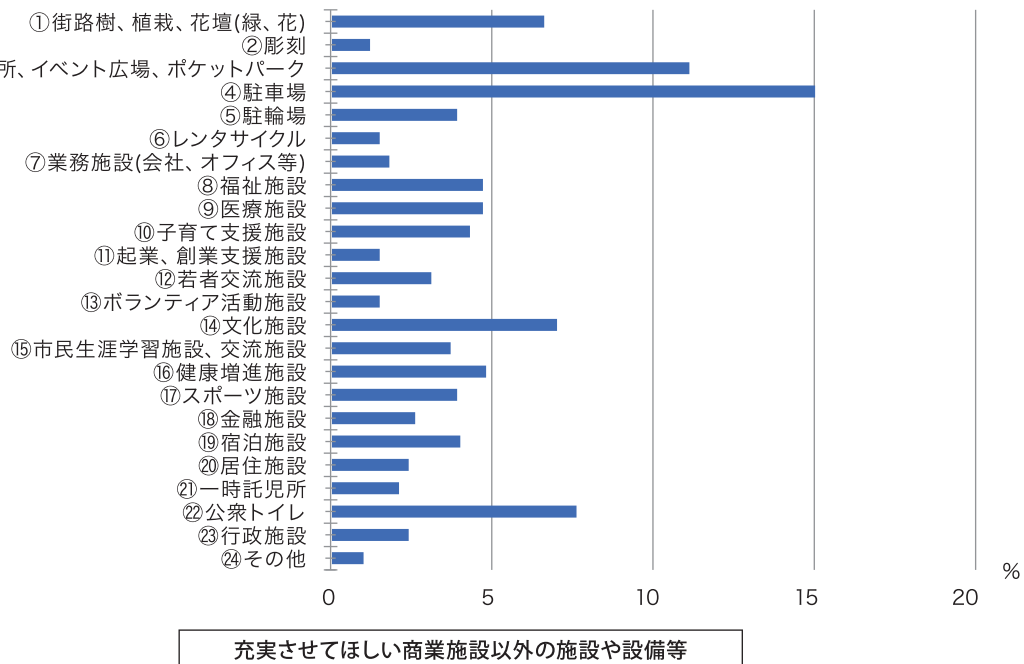
⇒ 食料品や生活用品を購入できる店舗のニーズが高い



⑤ 中心市街地に充実させて欲しい商業施設以外の施設・設備等

中心市街地に充実させて欲しい商業施設以外の施設・設備では、「駐車場」が最も多く、次いで「休憩所、広場、ポケットパーク」、「公衆トイレ」の順になっている。

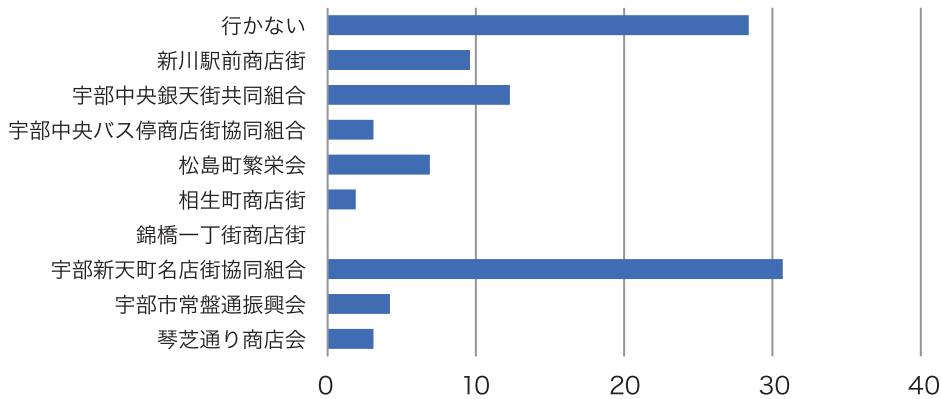
⇒ 利用しやすい駐車場に対するニーズが高い



⑥よく行く商店街について

「宇部新天町名店街」と「行かない」が共に約3割を占める。

⇒「宇部新天町名店街」ではイベント等を多く開催するなど、活発な活動を行っているが、その他の商店街では活動も少なく魅力が低い



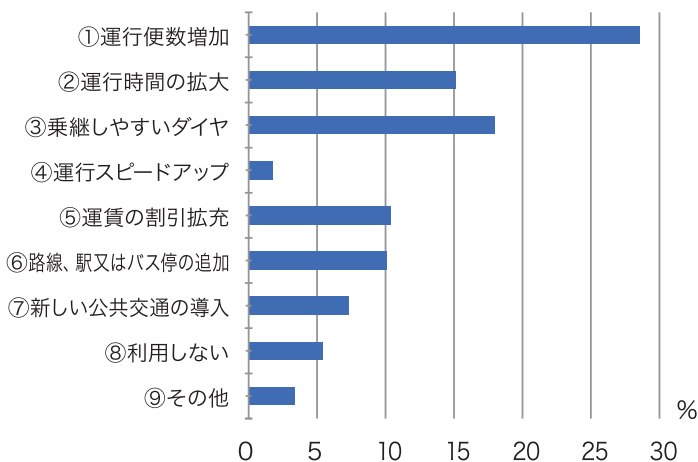
よく行く商店街 (聞き取り方式アンケートより)

⑦公共交通について

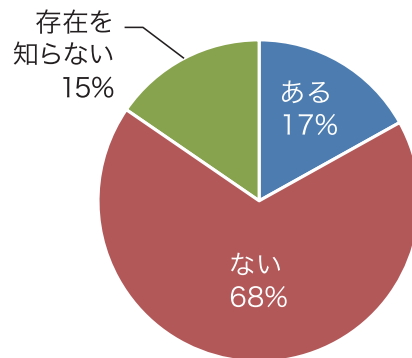
中心市街地に公共交通で移動するために重要と思われることは「運行便数増加」が最も多く、次いで、「乗継しやすいダイヤ」「運行時間の拡大」となっている。

また、中心市街地内を循環する市街地循環バスについて「利用したことがない」が68%、「存在を知らない」が15%であった。

⇒ニーズに見合う利便性の向上やPRが重要



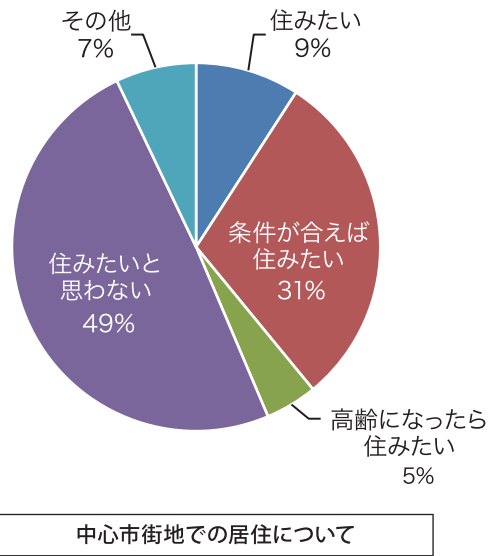
公共交通で移動するために重要と思われること



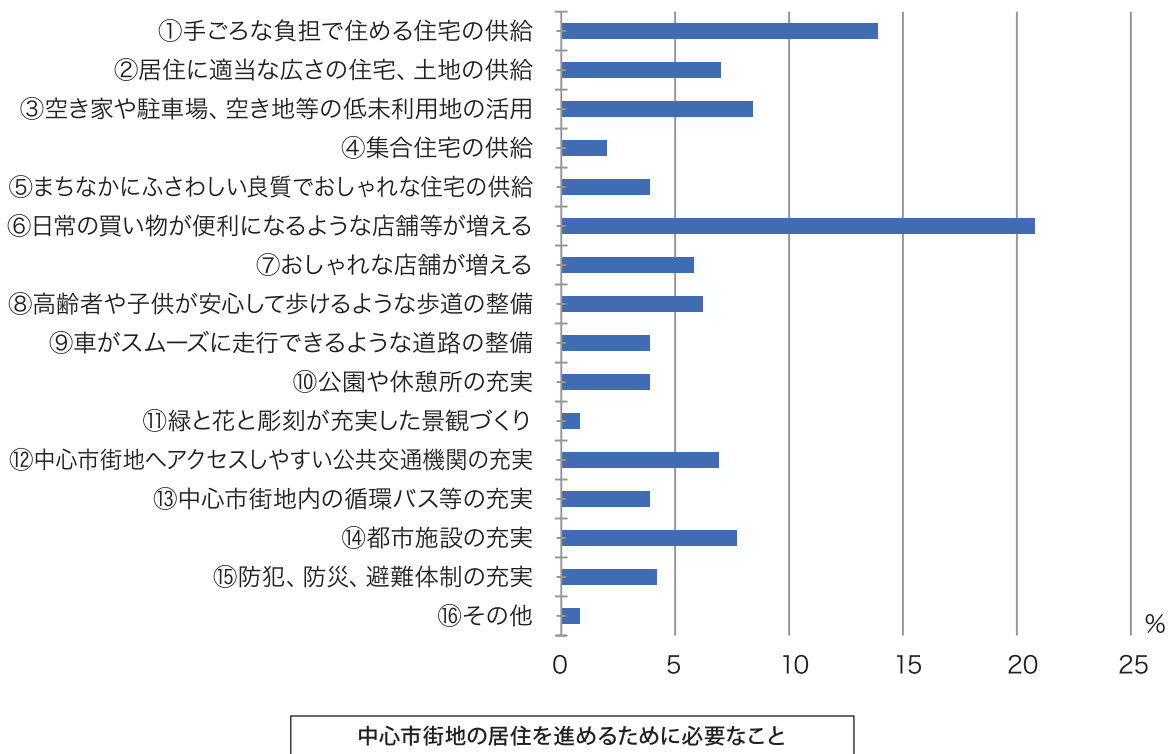
市街地循環バスの利用について (聞き取り方式アンケートより)

⑧居住について

中心市街地での居住については「住みたいと思わない」が5割を占め、「住みたい」は1割に満たない。

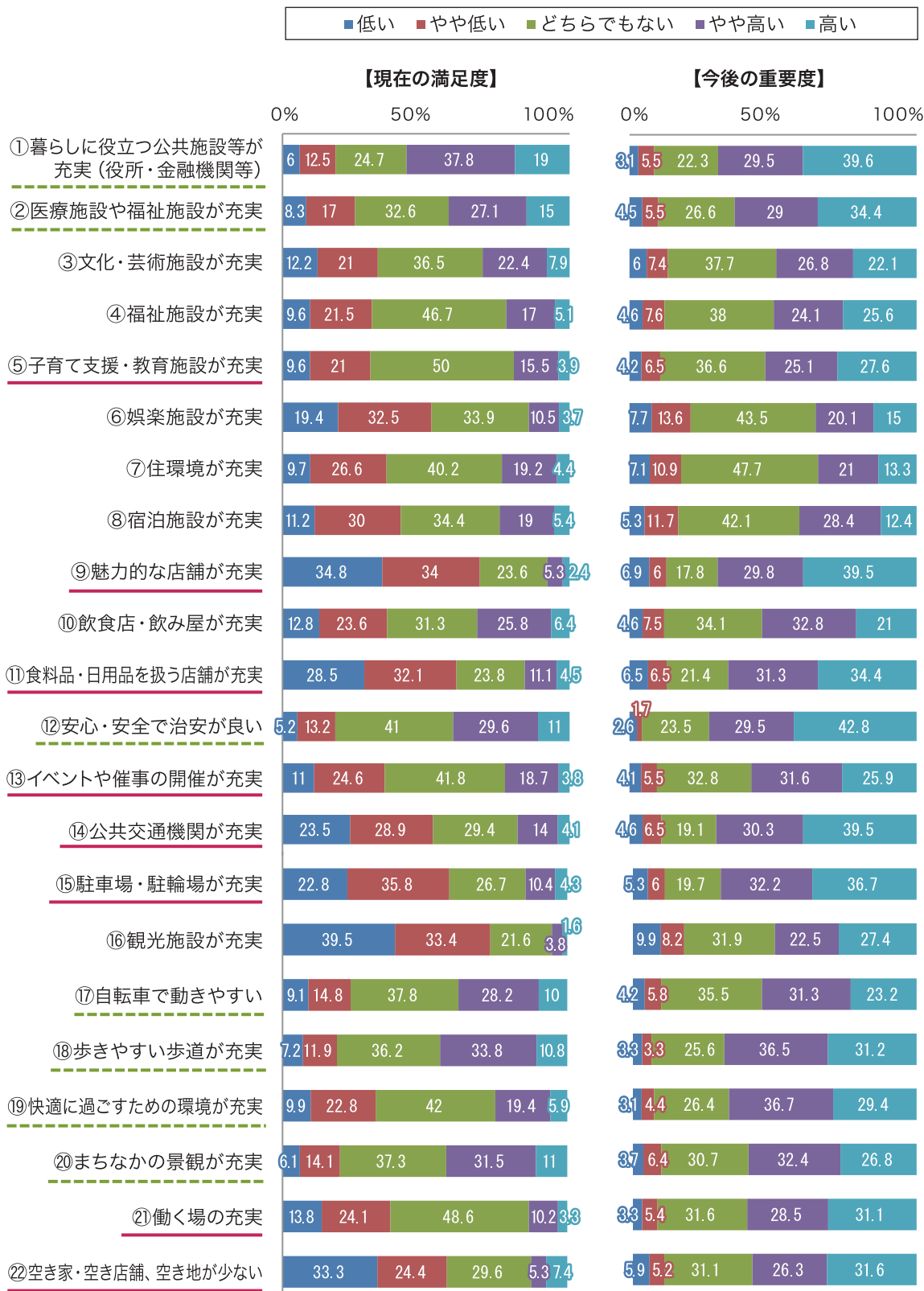


中心市街地の居住を進めるために必要なことは、「日常の買い物が便利になるような店舗が増えること」が最も多く、次いで「手ごろな負担(住宅価格や家賃)で住める住宅の供給」、「空き家や駐車場、空き地等の低未利用地の活用」の順となっている。

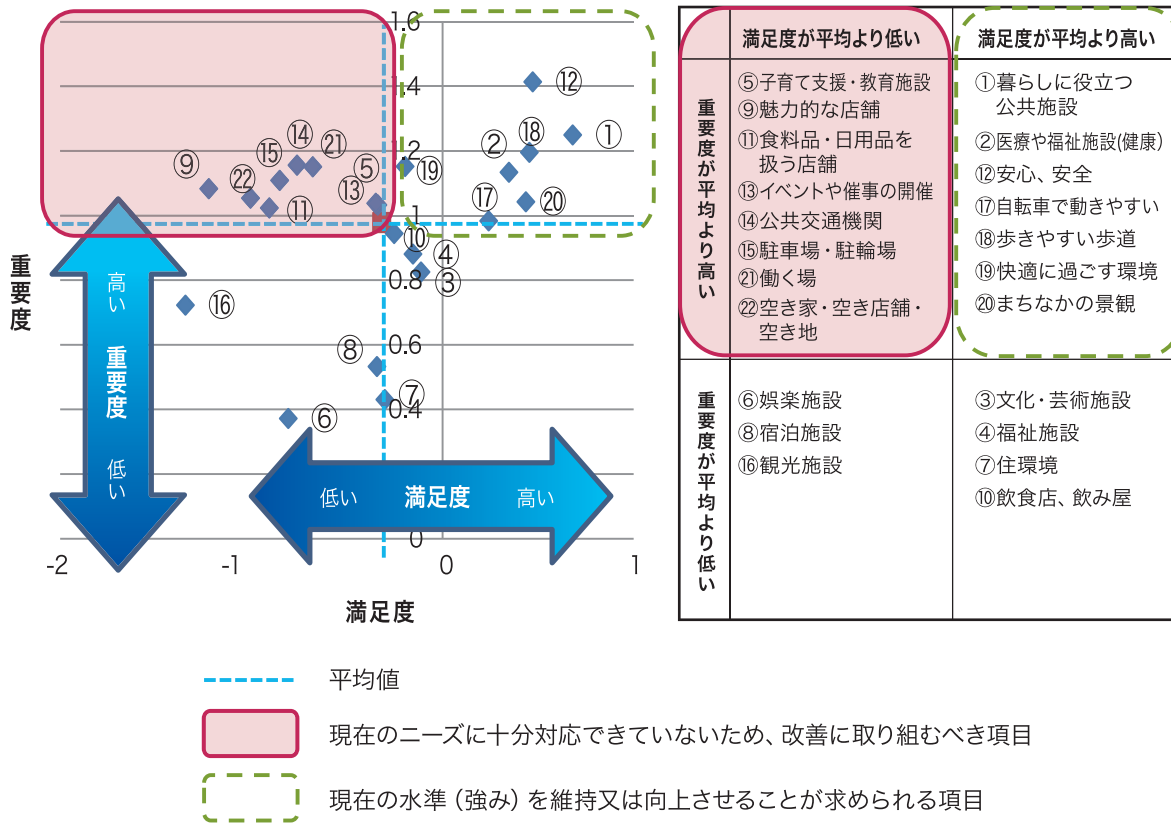


⇒生活必需品などを快適に購入できるような利便性の高い店舗等の導入が居住を促進すると考えられる

⑨ 中心市街地における「現在の満足度」と「今後の重要度」



22 項目の満足度と重要度



満足度と重要度の相関図

22項目のうち、現在の満足度が低く、今後の重要度が高い項目は、「子育て支援・教育施設が充実」、「魅力的な店舗が充実」、「食料品・日用品を扱う店舗が充実」、「イベントや催事の開催が充実」、「公共交通機関が充実」、「駐車場・駐輪場が充実」、「働く場の充実」、「空き家・空き店舗、空き地などが少ない」の8項目となっている。

⇒これらは、ニーズが高いにも関わらず、満足度が低いため、改善が求められている項目である

また、現在の満足度、今後の重要度共に高い項目は、「暮らしに役立つ公共施設等が充実」、「医療や福祉施設(健康)が充実」、「安心、安全で治安が良い」、「自転車で動きやすい」、「歩きやすい歩道が充実」、「快適に過ごすための環境」「まちなかの景観が充実」の7項目となっている。

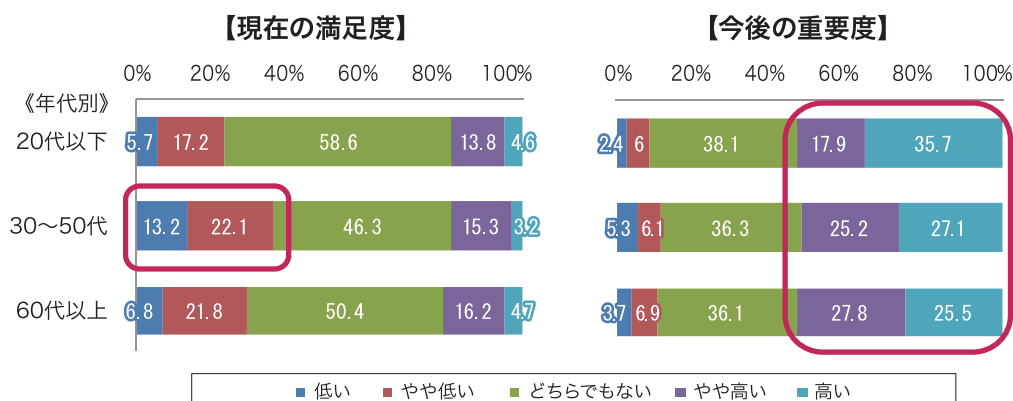
⇒これらは、中心市街地の“強み”であるため、今後も維持又は向上させることが必要となる項目である

以下、これらの項目について、過去のアンケート等も踏まえ、考察する。

現在の満足度は低く、今後の重要度が高い項目

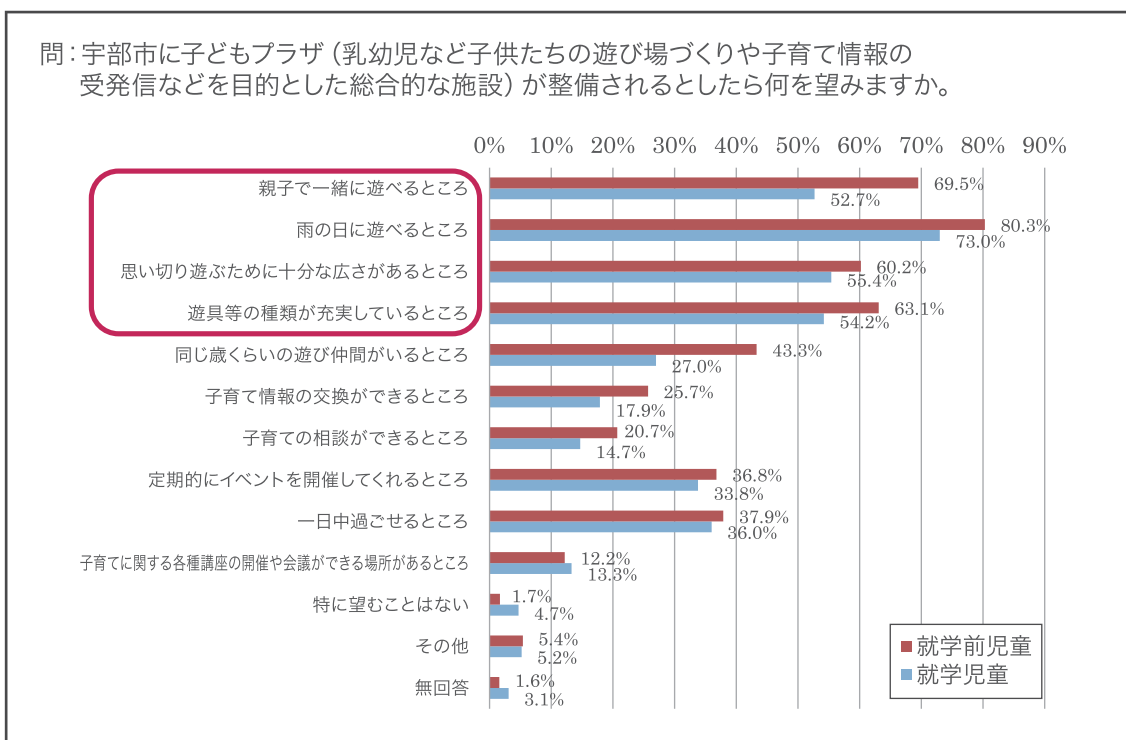
【⑤子育て支援・教育施設が充実】

年代別に比較すると、全年代で「今後の重要度」が高いことがわかる。さらには、子育て世代である「30～50代」で最も「現在の満足度」が低い結果となっている。



⇒全年代で「子育て支援・教育施設」の充実が求められているが、特に、子育て世代におけるニーズが高い

平成25年10月に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」によると①雨の日に遊べる、②親子で一緒に遊べる、③十分な広さを持つ施設、④遊具等の種類が充実など屋内型の大きな施設が求められている。

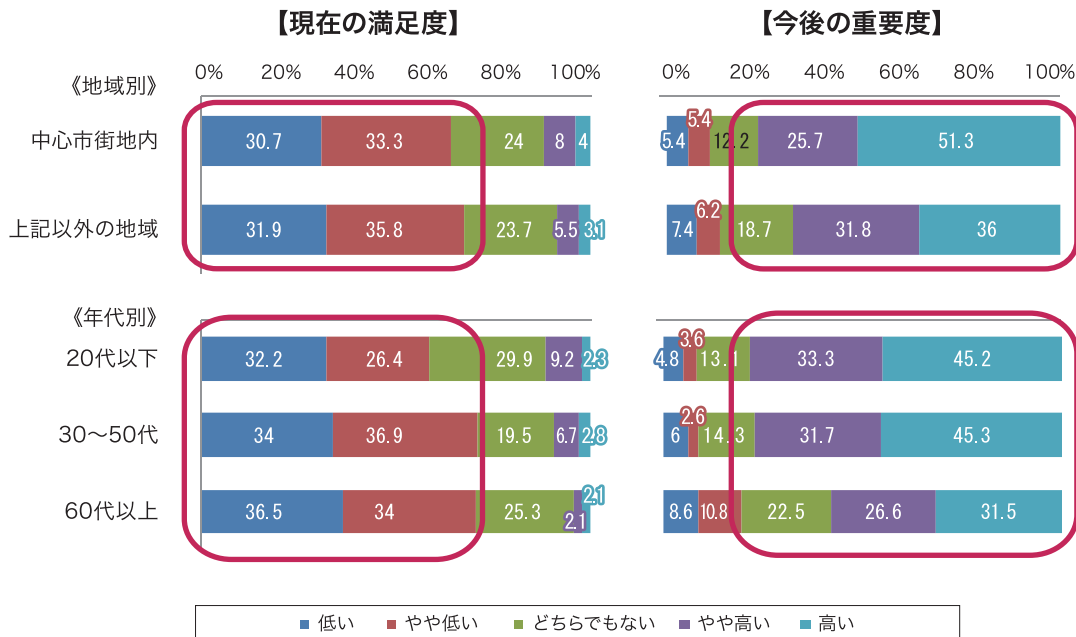


子育て支援に関するアンケート調査より抜粋 (H25.10)

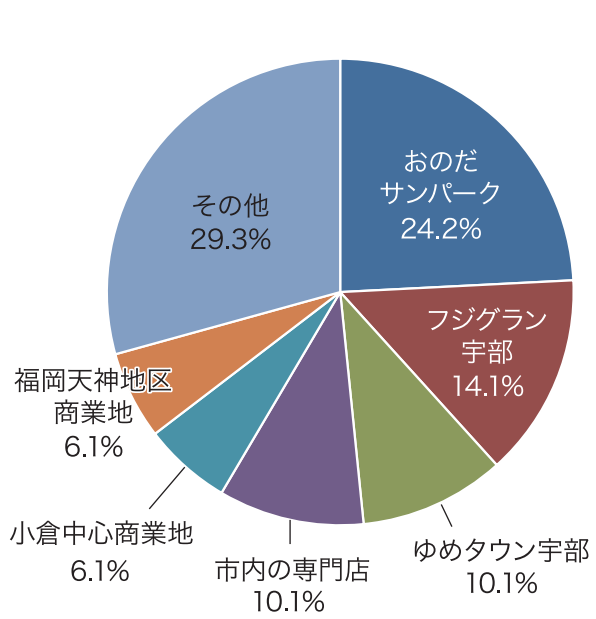
【⑨魅力的な店舗が充実】

「現在の満足度」について低いと回答した人、「今後の重要度」について高いと回答した人は、ともに7割程度を占める。これは、居住地域や年代にあまり差は見られない。

⇒「魅力的な店舗の充実」については、22項目の中でも非常にニーズの高いことが読み取れる



(参考) 宇部市民がよく行く商業地(買回り品) ※山口経済月報2018.3(調査年:H29.11)

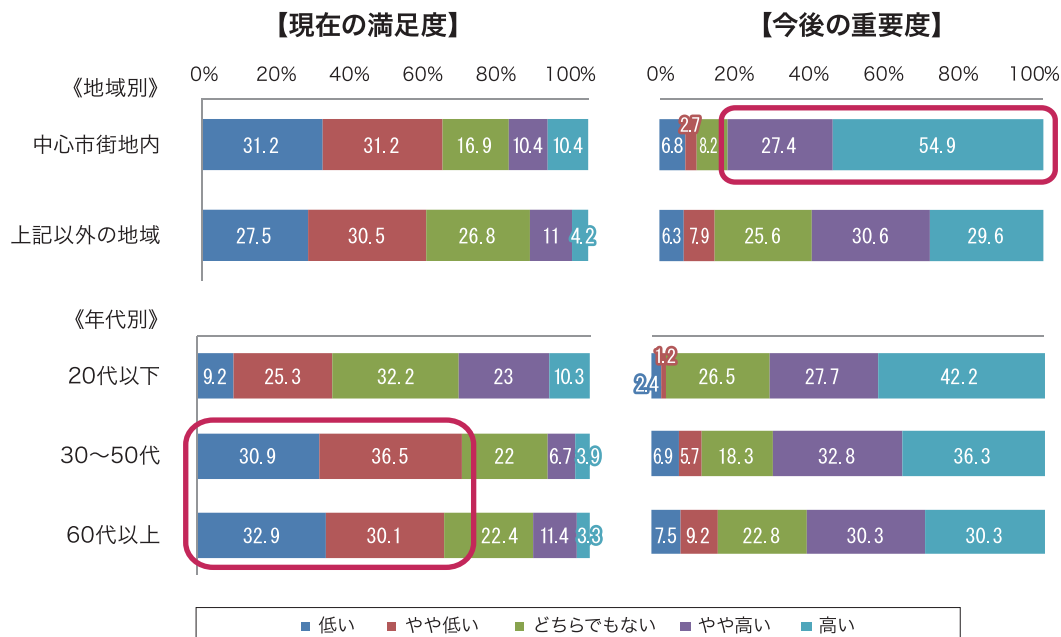


商業地	年代	買回り品
		H29
おのだサンパーク	全体	24.2
	10～40代	31.3
	50代以上	16.0
フジグラン宇部	全体	14.1
	10～40代	10.4
	50代以上	18.0
ゆめタウン宇部	全体	10.1
	10～40代	4.2
	50代以上	16.0
市内の専門店	全体	10.1
	10～40代	6.3
	50代以上	14.0
小倉中心商業地	全体	6.1
	10～40代	6.3
	50代以上	6.0
福岡天神地区商業地	全体	6.1
	10～40代	8.3
	50代以上	4.0

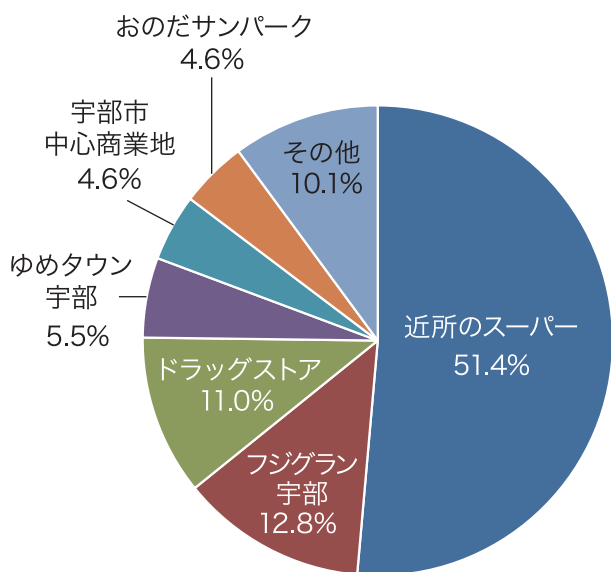
【⑪食料品・日用品を扱う店舗が充実】

⑨同様、非常にニーズが高い項目ではあるが、特に、中心市街地に居住している人の「今後の重要度」が高く、子育て世代(30代～)以上の「現在の満足度」が低いことがわかる。

⇒旧山口井筒屋宇部店やレッドキャベツ新天町店などの大型商業施設の閉店に伴い、生活必需品の買い物に大きな不便が生じていると推察できる



(参考) 宇部市民がよく行く商業地(生活必需品) ※山口経済月報2018.3(調査年:H29.11)

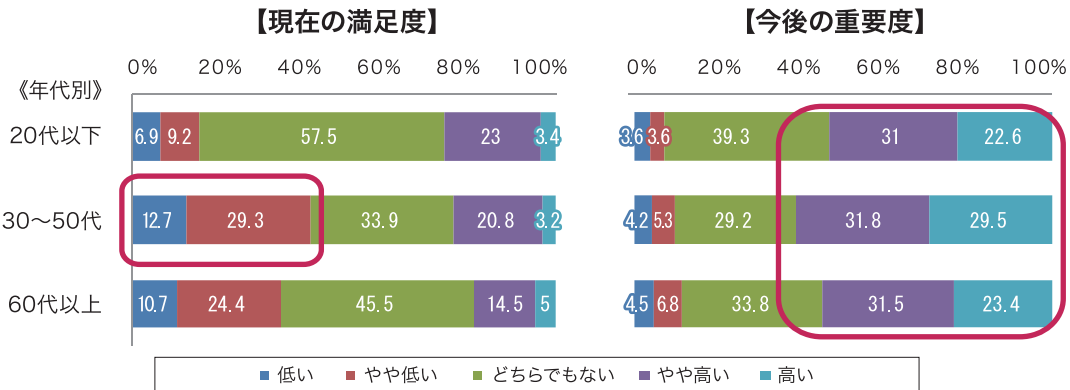


商業地	年代	生活必需品
		H29
近所のスーパー	全体	51.4
	10～40代	48.1
	50代以上	55.4
フジグラン 宇部	全体	12.8
	10～40代	17.3
	50代以上	8.9
ドラッグストア	全体	11.0
	10～40代	15.4
	50代以上	7.1
ゆめタウン 宇部	全体	5.5
	10～40代	5.8
	50代以上	3.6
宇部市中心商業地	全体	4.6
	10～40代	0
	50代以上	8.9
おのだサンパーク	全体	4.6
	10～40代	5.8
	50代以上	3.6

【⑬ イベントや催事が充実】

全年代で「今後の重要度」が高い。「現在の満足度」については、特に30～50代の子育て世代で低いことがわかる。

⇒中心市街地におけるイベントの開催は、今後も必要であることが分かる。しかしながら、現在の満足度の低さも読み取れることから、イベントの内容や頻度など、より魅力の高い企画が必要である

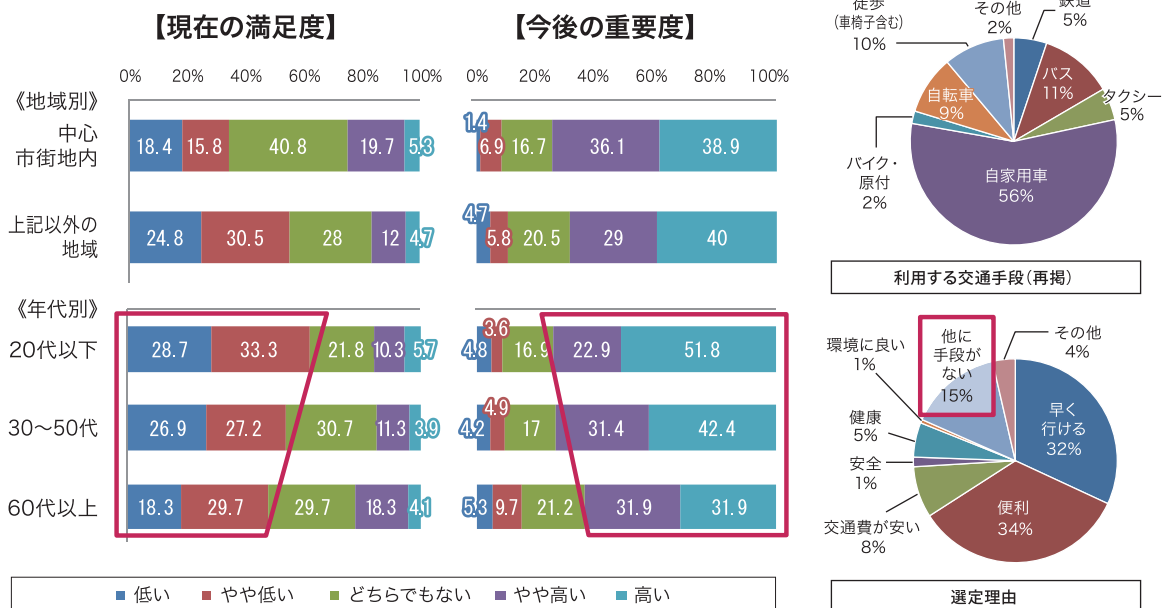


【⑭ 公共交通機関が充実】

「現在の満足度」について低いと回答した人は5割を超え、「今後の重要度」について高いと回答した人は、7割程度を占めており、非常にニーズが高い。年代別に見ると、若い年代の方がよりニーズが高い傾向にある。

主な交通手段に対して、その手段を選んだ理由は、「便利」が34%、「早く行ける」が32%で、次いで、「他に手段がない」が15%である。

⇒自家用車以外の公共交通について、利便性を高めることが必要である

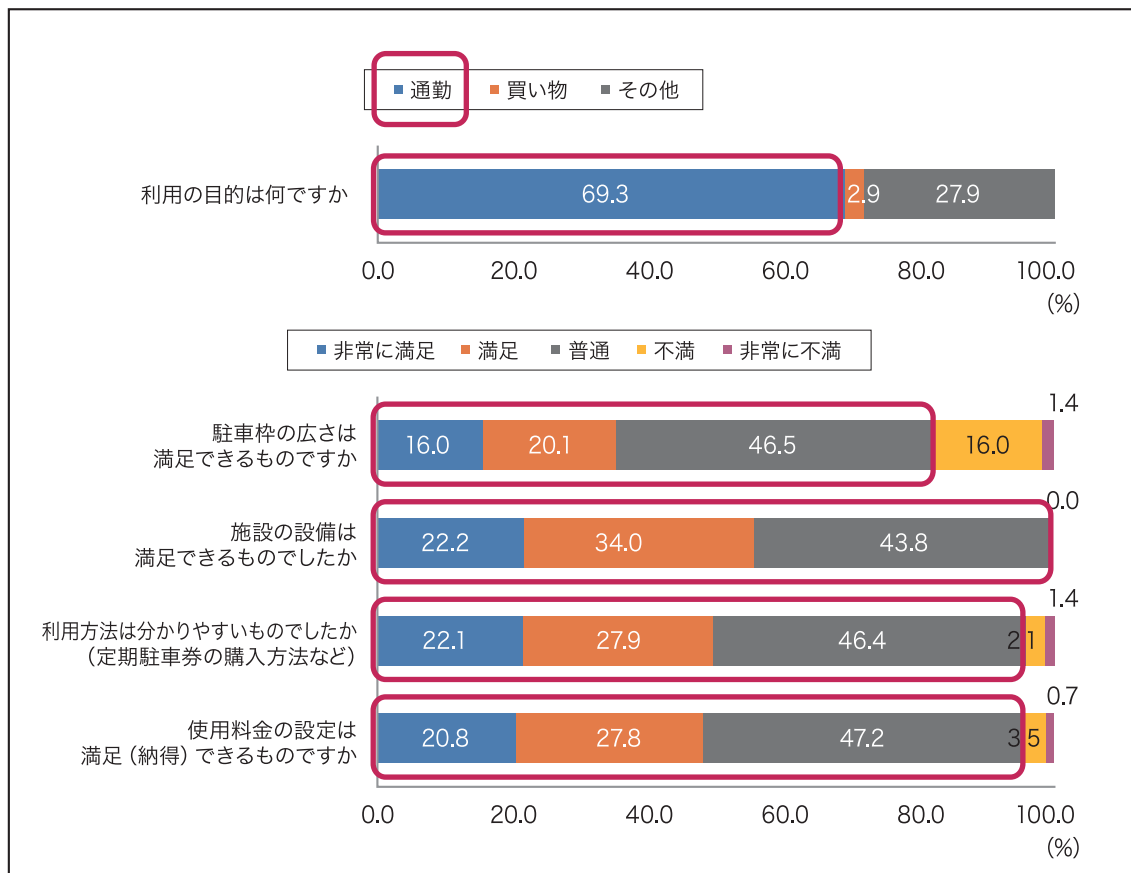
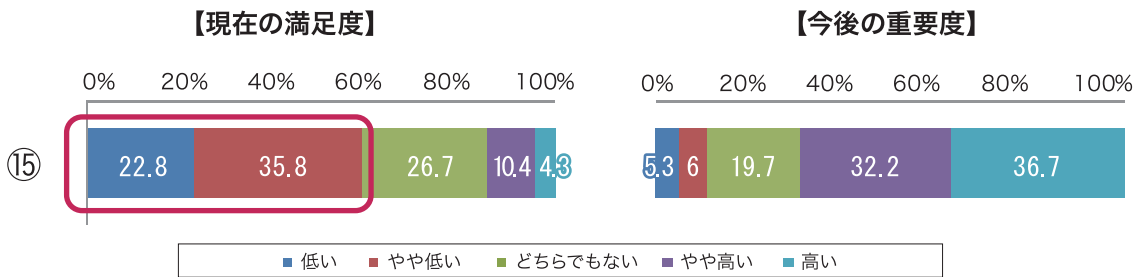


【⑮駐車場、駐輪場が充実】

非常にニーズが高い項目である。満足度の低さが際立っており、約6割が現在の駐車場環境に満足していないことが分かる。

平成30年に実施した市営駐車場における「指定管理者モニタリングレポートの利用者アンケート」の結果によると、駐車場を利用する主な目的は「通勤」であり、70%を占める。「買い物」は約3%とかなり低く、一時的な利用である時間貸しより、定期貸しの利用が多いことが分かる。

駐車場の広さや料金、設備など駐車場機能としての評価は「普通」以上が多い。
 ⇒駐車場機能に対する評価は高いにも関わらず、満足度は低いことから、立地状況や利便性などに不満を感じている人が多いと推察される

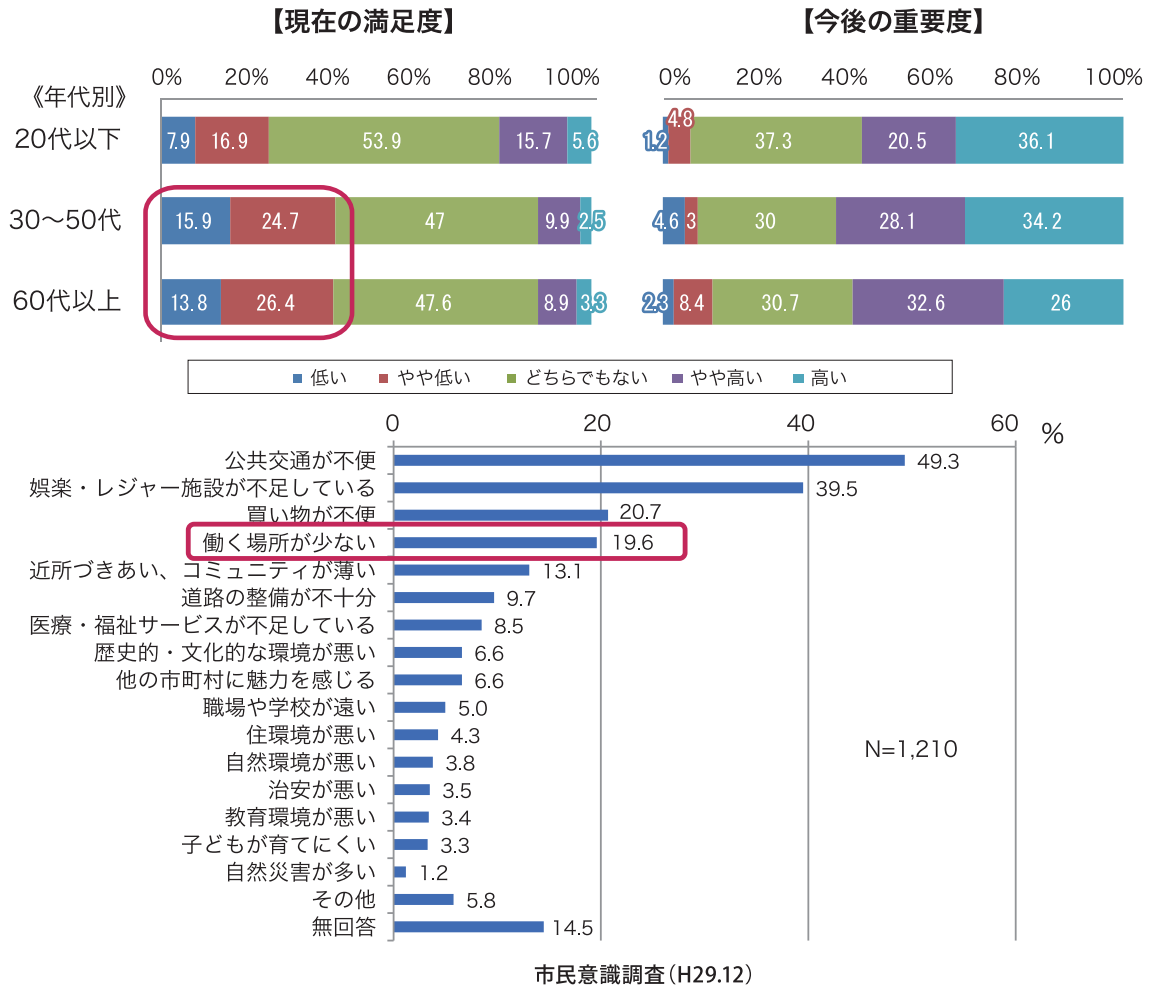


指定管理者モニタリングレポート利用者アンケート(H30)

【②働く場の充実】

30代以上で特に、「現在の満足度」が低い結果となっている。また、平成29年12月に実施した「市民意識調査」によれば、約2割の方が「働く場が少ない」と感じている。

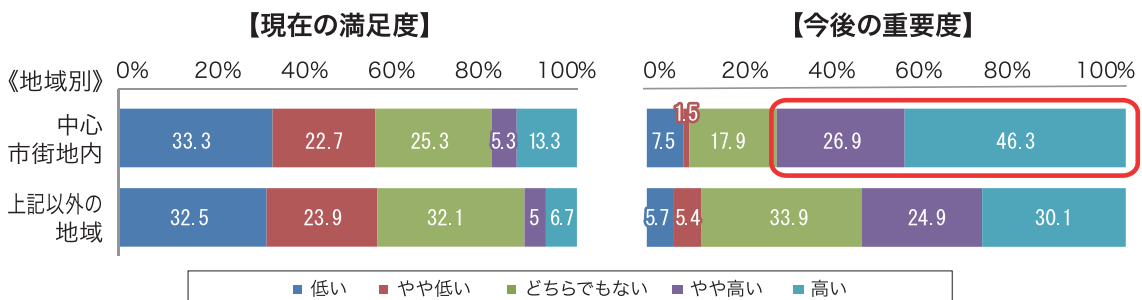
⇒働く場の数を増やす施策が必要である



【②空き家、空き店舗、空き地などが少ない】

「現在の満足度」は居住地域による差は少なく全体的に低い。「今後の重要度」は中心市街地に居住しているの方が重要と感じていることがわかる。

⇒空き家、空き店舗、空き地の解消の重要度は大きい



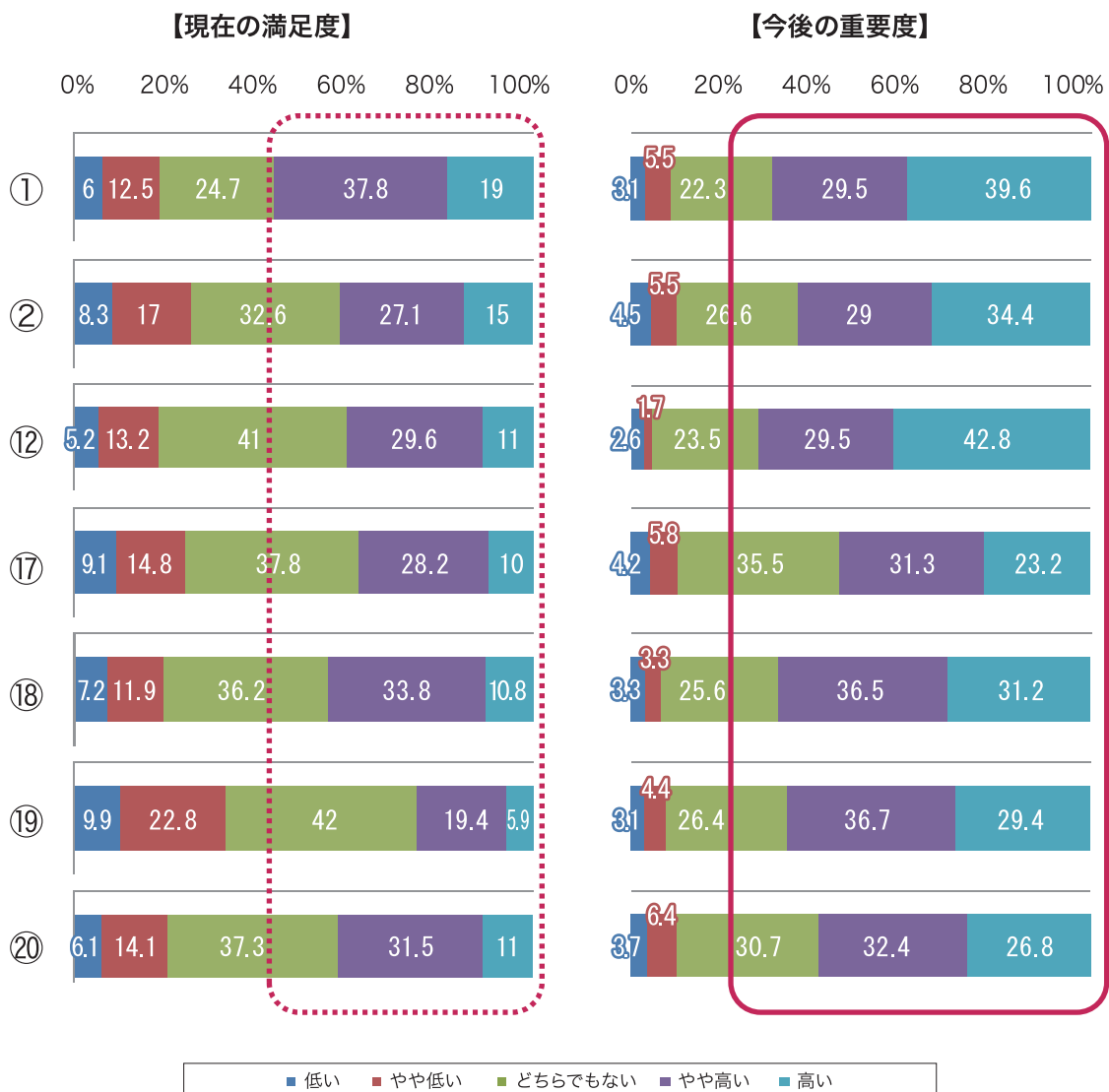
現在の満足度、今後の重要度が共に高い項目

- 【①暮らしに役立つ公共施設の充実】
- 【②医療施設や福祉施設(健康)が充実】
- 【⑫安心、安全で治安がよい】
- 【⑰自転車で動きやすい】
- 【⑱歩きやすい歩道が充実】
- 【⑲快適に過ごすための環境が充実】
- 【⑳まちなかの景観が充実】

これらの7項目は、中心市街地の強みと言える項目である。7項目すべてにおいて、満足度より重要度の割合の方が高くなっている。



“強み”として、より一層充実を図る必要がある



(2) 市民タウンミーティングの意見収集

《1》開催日とテーマ

- ◇第1回 令和元年5月18日(土) ～まちなかのにぎわい創出～
- ◇第2回 令和元年6月15日(土) ～行きたくなる「まちなか商店街」～
- ◇第3回 令和元年7月20日(土) ～住みたくなる「まちなか」～

《2》形式

ワークショップ形式

《3》参加対象者

市内在住又は在勤・在学の15歳以上(高校生以上)の方

《4》参加人数

第1回:23名 第2回:19名 第3回:18名

【主な意見等(抜粋)】

○～まちなかのにぎわい創出～

- ・圧倒的センスのある公園が必要
- ・まちで働きたい人のためのチャンスを創出する
- ・職⇒居住⇒飲食⇒商業のサイクルが必要
- ・空き家の活用やイベントの実施など、まちなかに来たくなるような仕掛けが必要

○～行きたくなる「まちなか商店街」～

- ・誰もが溜まれる場等があると良い
- ・旧山口井筒屋宇部店に図書館を整備
- ・生活密着型商売をする
- ・ユーザーニーズを把握し、個々の店舗の工夫が必要
- ・街(通り)としての統一性と他との差別化が必要
- ・ターゲットとエリアを明確化した商いが必要

○～住みたくなる「まちなか」～

- ・多世代が住める集合住宅が必要
- ・ショッピングモールやデパートなどの立地が必要
- ・子どもにやさしい図書館が必要
- ・カフェやスーパーがもっと充実してほしい
- ・電車とバスのダイヤを整合(利用しやすい公共交通)してほしい
- ・歩いて暮らせるまちづくりが必要
- ・安心して子どもが遊べる場が必要